

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2690700055		
法人名	株式会社ケア21		
事業所名	グループホームたのしい家梅津(2)		
所在地	京都市右京区梅津石灘町11番		
自己評価作成日	2021.10.25	評価結果市町村受理日	令和3年12月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/26/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JkyosvoCd=2690700055-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人 京都ボランティア協会
所在地	〒600-8127京都市下京区西木屋町通上ノロ上る梅湊町83-1「ひと・まち交流館京都」1階
訪問調査日	令和3年11月15日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>できることを、できる形で寄り添う。個々に合わせた生活ペースで生活していただく</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>グループホームたのしい家梅津は、株式会社ケア21により、2010年11月に開設されました。利用者定員は18名で、平均年齢は89歳、平均介護度は2.9です。利用者の高齢化に伴い、集団での室内レクリエーションが困難になってきている現状があります。職員は利用者個々の身体機能の「できる」ことに着目し、将棋(職員と)、歌、縫物、ぬり絵、時代劇を見る、風船バレーなど、楽しみの継続を支援しています。管理者は今年4月に昇格されています。事業所運営は「職員間でよく話し合い決めていきたい。職員には自分で判断する力を培い仕事を任せられる人材に育てほしい」また「利用者は明るく穏やかな方が多く、職員を信頼している様子です」と、話されています。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらい 3. 職員の1/3くらい 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらい 3. 家族等の1/3くらい 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「ホームで最期まで自分らしく」という事業所独自の理念に基づいて、管理者と職員は、ご自身でできることに寄り添い、最後まで自分らしく生活して頂けるよう実践している	事業所では会社の経営理念に沿い、単年度ビジョン(11月更新)を作成している。今期は「家庭的な生活～自分らしく、楽しく、生きる～」を掲げている。生活向上リハビリ、認知症緩和、地域交流の3視点で行動計画を立て事業展開している。全体会議で毎年、ビジョンの振り返りや更新時に経営理念について話をしている。事務所に経営理念は掲示しているが、利用者や訪問者、職員のしやすい場所への掲示が望まれる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍の影響もあり直接会う等の交流は出来ていないが、間接的な交流をしている	町内会には入会していない。コロナ禍でボランティアによる余興の受け入れは自粛中であるが、収束後は再依頼する予定である。コロナ流行前は学童保育の児童(歌や踊り)の訪問があった。連絡はとりあっており、コロナ禍では手作り作品のプレゼントが届いている。今期のビジョン(地域交流)では、「地域と互いに行き交い、・・・『自分らしく、楽しい』繋がりを提供」を挙げている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の議事録や事業所便りを郵送ではなく、直接お持ちし会話することによって地域に対し、事業所アピールにつなげている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍の影響もあり、外部からの参加は控えて頂いているが、事業所内で確実に言い、発信している	コロナ禍で職員メンバー6~7人で会議をおこなっている。利用者情報、行事、事故、ヒヤリ・ハットの報告がある。参加メンバーである民生委員と地域包括支援センター職員、加えて家族に議事録を郵送しているが、意見や質問シートは添付できていない。サービスの質を検討する会議目的としては、報告内容が少なくないか検討されてはどうか。	書面開催で会議をおこなう時は、議事内容に意見や質問シートを添付しそれを踏まえて会議をされてはどうか。意見や質問に対しては返答も必要である。また、地域代表が民生委員のみなので、利用者の地域交流につながるような人選で増員を期待する。

京都府 グループホームたのしい家梅津(2)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議の議事録や事業所便りを郵送ではなく、直接お持ちし会話することによって地域に対し、事業所アピールにつなげている	行政には、運営推進会議議事録や事故報告書を手渡しに出向いているが、十分な関係構築には至っていない。管理者になられて日は浅いが、徐々に協力関係を築くことを期待する。サービス事業者連絡会は参加して、他事業所と情報交換をしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指針における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	2ヶ月に1回身体拘束委員会を開催し、日頃から身体拘束に対しての意識付けを行っている	身体拘束委員会は運営推進会議時におこなっている。マニュアルは作成している。会議内容は連絡ノートに挟み、職員全員が閲覧している。会社で年2回の研修をおこない、参加した職員は伝達研修をして職員間での情報共有、討議をしている。玄関は開錠しているが各フロアは施錠している。現在、外に出たい様子を見せる利用者はいないが、外に出たい言動があった時は職員と一緒に散歩に行くこととしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修やカンファレンス、面談の場を設け、虐待に対する理解を深め、意識付けを行っている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	社内研修にて理解を深め、必要に応じカンファレンスの場を設けている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約、解約、改正時には十分な時間を設け説明を行っている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様からの意見は速やかに職員間での話し合いをし、必要に応じ上長に相談、対応している。また、施設内にご意見箱を設置している	利用者から日々聞き取った要望は、朝礼時やカンファレンスで検討し、日常生活に反映させている。家族からの意見や要望は、電話で聞くことが多い。コロナ禍での心配の言葉や個人的な要望がある。家族会は年1回開催していたが現在は中止である。管理者就任の4月からは、行事の様子など手紙に書いて家族に送付している。面会は玄関で5～10分程度で開始している。利用者の身体状態に合わせ、居室での面会をおこなうこともある。アンケート調査はできていない。	顧客満足度調査(アンケート)は、利用者(家族)の意向とともに、感謝の言葉も届く。職員の日々提供しているサービスの質を見極める手段として実施を望む。

京都府 グループホームたのしい家梅津(2)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的な会議を実施し、職員からの意見や提案を吸収、運営に反映させている	職員の意見は業務中に聞くこともあるが、全体会議(月1回)、個別面談(年1回)で聞き取っている。全体会議で職員の発言はある。日勤帯の時間変更、在庫を抱えない物品の発注など検討している。ユニットごとの会議はおこなっていない。	ユニットごとの会議をおこなってはどうか。ユニットごとに利用者の特徴の違い、職員の思いがあるのではないかと。統一した見解でサービス提供をおこない、特徴あるユニット運営を期待する。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	会社独自の人事制度に基づき、職員の努力や実績を把握し、給与に反映している		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者も現場に入り、職員とともに一緒に考え、現場でケアをすることで一人一人の力量を把握している。また、積極的に研修への参加は促している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同法人のグループ内での交流はあるが、他の法人との交流は積極的に行っていない		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前のアセスメントでしっかりとご本人様の要望を聞き、カンファレンスを通じて職員間で共有している		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	施設見学や、アセスメント時に現在の状況や困っていることをお聞きし、関係づくりに努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	既往歴や生活歴、経済面などを含めてどのようなサービスが必要か、本人様、家族様と話し合い満足のできるサービス受けることが出来るよう努めている		

京都府 グループホームたのしい家梅津(2)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	レクや家事を通じ、その人ができることへ寄り添い、なじみの関係が築けるよう努めている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日常生活の報告や様子など、毎月の事業所便りにて手書きで報告し、また、都度電話などで報告している		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前に利用していたサービス等、継続できることは入居後も継続し、また、出来る限り忘れてしまわないよう、寄り添い、支援に努めている	コロナ前は、仕事の同僚だった方や近所の方の訪問があり、通い慣れた理美容院に家族や職員が同行していた。マッサージに通っていた方には、訪問マッサージで継続している方はある。利用者の高齢化が進み「出来ること」が減少しつつある状況もあるが、利用者の好きなこと、できること(将棋、縫物、歌、塗り絵、風船バレーなど)を個別レクリエーションで支援している。担当介護士は利用者の近況を毎月手紙で家族に知らせている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日常生活の中で、関係性を把握し、職員が間に入り孤立しないよう支援している		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じ、フォローや支援に努める		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	プラン作成時には本人様の思いや意向を聞き、また困難な場合にも本人様本位の支援ができるよう検討している	入居時はフェイスシートに利用者(家族)の暮らしへの意向を聞き取っている。居宅介護支援専門員の情報も得ている。入居後は日々の関わりの中で聞き、連絡ノートや介護記録に書き、職員間で情報を共有している。意思疎通が困難な方には表情や様子を見落とさないようにしている。「シャンプーは2回している」「夜間お腹が好きお菓子を食べている(菓子は家族が準備)」など個別支援をおこなっている。	

京都府 グループホームたのしい家梅津(2)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントや、日々の生活の中でのコミュニケーションで本人様の生活歴の把握に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録や訪問看護、往診などで心身の状態の把握に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスの中で意見交換を行い、計画作成に反映させている	カンファレンスは6か月ごとや必要に合わせ随時おこなっている。また、6か月ごとのカンファレンス時介護計画の見直しもおこない、担当介護士はケアチェック表を用い再評価をしている。サービス担当者会議は12か月ごとにおこなっている。コロナ禍では家族の出席は自粛である。事前に意向は聞き会議に反映させている。モニタリング記録が確認できなかった。	介護展開していく中で、サービス内容の妥当性を判断するモニタリングは重要である。介護支援専門員、計画作成担当者を中心に実施を望む。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録や管理日誌、連絡ノートを用いて情報の共有、実践に生かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人様や家族様の状況に応じて、柔軟に対応できるよう努めている		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍の影響もあって地域資源の活用はできているとは言えないが、把握に努め、多くの選択肢を提供できるよう努める		

京都府 グループホームたのしい家梅津(2)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にはかかりつけ医を選択することができ、協力医との連携状況を説明し、決めてもらっている	入居時に入居前からのかかりつけ医か、事業所の協力医療機関に変更するのか確認している。現在は1名が以前からのかかりつけ医を継続し、受診を家族とおこなっている。協力医療機関からは、訪問診療と臨時の往診を受け、24時間対応で夜間の緊急連絡体制もできている。訪問歯科受診は週1回あり、歯科衛生士による口腔ケアも受けている。訪問看護は週1回あり、協力医療機関との連携もできている。訪問マッサージは希望者が受けている。緊急時や夜間の対応は「夜間緊急連絡体制」に沿って対応している。緊急入院など家族の希望は聞き取っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1回の訪問日には、個々の状況を説明し、適切な処置や指示を受けられるよう努めている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院関係者やご家族様、医療連携との情報交換を密に行っている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化した場合における対応に係る指針についての説明を行い、同意を得ている。また、重度化した場合には医師とご家族様、当ホームで話し合いを重ね、個々に適した対応を行っている	入居時に「重度化対応・終末期対応に係る指針」に沿って家族に説明し、同意を得ている。重度化した場合は、医師、家族、職員が、そのつど話し合いをおこない、ターミナル期は、身体を清潔に保ち、安楽、安全に過ごせるように家族とともに支援している。看取りについての法人研修が年1回あり、伝達研修などで、職員全員が学びを深めている。この1年での見取りは4名ある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変、事故発生時の対応については、会議などで定期的に全職員に説明し、実践できるよう努めている		

京都府 グループホームたのしい家梅津(2)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回の消防訓練を実施している。コロナ禍の影響で消防職員立ち合いは実施できず、施設内での開催としました。	コロナ禍のため、消防署の立ち合いは実施されないが、日中と夜間想定で年2回の消防訓練をおこなっている。自然災害については、「洪水及び土砂災害避難確保計画」のマニュアルを作成しており、次の訓練から予定している。備蓄は、水や食料、備品など、3日分を準備している。AED取り扱い研修は受講している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の生活歴や性格などを把握し、人格を尊重しながら親しみを持てるようなコミュニケーションをとっている	法人研修で、接遇、コンプライアンス、人権、虐待などが生まれ、プライバシーについての内容が入っている。職員は伝達研修によりプライバシーについて、学ぶことができている。呼称については、苗字で「〇〇さん」と呼び、トイレや入浴時には、扉を閉めるなど配慮している。職員は研修の学びで、プライバシー保護の認識は高めており、一人ひとりの人格を尊重した対応を心掛けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	できるだけ自己決定していただけるよう働きかけ、困難な方は日常的なケアの中で思いを汲み取るようにしている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人に応じた対応を心掛けている。また、困難な方にはどのように過ごして頂くか職員間で話し合い、決定している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自己決定を大事にし、また、気温や季節に合わせた声掛けも行っている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	出来ることを出来る範囲でともに行うことを大事にし、準備から後片付けまで一緒に行っている。また、個々に合わせた食事形態で提供している	朝食は職員が作り、昼食と夕食は業者から届く。ミキサー食の方も多く、職員がミキサーにかけている。また、トロミをつけるなど工夫している。飲み物やおやつは事業所で準備し、行事時や誕生日などは、持ち帰り寿司やケーキを買って食のたのしみを提供している。利用者は準備や後片付けなどできることを職員と一緒にしている。	

京都府 グループホームたのしい家梅津(2)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分量は記録に残し、好みなどの把握に努めている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアを行い、週に1回の歯科往診にて口腔衛生に努めている		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握し、個々の状況に合わせた時間や間隔で支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し、トイレ誘導の声掛けをして、日中はトイレでの排泄支援をしている。自立の方は1人おられる。大半の方はリハビリパンツを使用しており、夜間は、紙オムツやポータブルトイレを使用する、トイレ誘導など、利用者個々に合わせて支援をおこなっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄記録を確実につけ、個々の排便状況を把握し、コントロールに努めている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	24時間での対応はできないが、出来る限り本人様の希望での対応、また入りたいと思っただけのような声掛けをしている	入浴は週2回日中におこない、お湯は1人ずつ変えている。風呂場の手すりに赤いテープを貼り、利用者に手すりの認識を促している。「早く入りたい」「午後に入りたい」など、利用者の希望に合わせて同性介助で支援している。ゆず湯は提供している。入浴剤は皮膚疾患の方も使用していないが、シャンプーやリンスは好みの持参がある。入浴拒否の場合は、入りたくない理由を聞き、時間をおき、声掛けの仕方を変えるなどで対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	消灯時間や起床時間を決めず、個々の生活習慣で過ごせるよう支援している		

京都府 グループホームたのしい家梅津(2)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情のファイル管理を実施し、副作用に関しては申し送りや連絡ノートの記載し、周知している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ホーム内での家事手伝いやレクを通じて、それぞれの状況に合わせた支援を行っている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍の影響で外出などを控えていた	コロナ禍で外出はできないが、玄関前のガレージは広く、歩いたりベンチに座ったりして外気浴を楽しんでいる。事業所建物に沿い、西側に人工芝が敷かれている。ここでも、ゆっくり外気に触れ、敷地内での散歩ができる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	コロナ禍の影響で外出などを控えていた		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご希望に応じて支援している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	派手な配色は避け、落ち着いた環境で生活していただけるよう配慮している。また、折紙などで季節のものを作成し、リビングに張り出し、季節を感じていただけるようにしている	リビングは西側に窓があり明るい。テーブルは2人程度で利用している。季節感は作品作りで感じており、掲示板に「もみじとリス」の折り紙作品が展示してある。派手な装飾はなく、落ち着いて過ごせる環境を提供している。加湿器付きの空気清浄機が設置され、換気にも注意している。利用者は、テレビを見る、談話する、歌をうたう、風船バレーなど、やりたいこと、できることの過ごし方で楽しんでいる。職員はそれぞれのテーブルを回り支援している。掃除は職員が朝に掃除機をかけ、夜にモップ掛けをおこなっている。	

京都府 グループホームたのしい家梅津(2)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにいながらも一人になれるよう、ソファに座ってもらうなど個々に合わせた環境の提供を行っている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に、ご家族様と相談し、使い慣れたものを持ってきていただく、できるだけ元居た家に近い環境を居室内で作るなどの工夫をしている	居室は、ベッド、エアコン、クローゼットが備え付けられている。家族には、使い慣れた物の持参を伝え、タンスや戸棚、椅子、家族の写真や仏壇も持って来られている。家の自室とできるだけ同じ環境を作り、居心地良く落ち着く環境を提供している。清掃は週1回と適時おこなっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	大きな張り紙をしたり等、視覚的に判断できるような工夫を行っている		